

ロックミュージックの社会問題に対する影響力

4年 オムニバス

2019年11月30日

●目次

1. 概要
2. 差別とブルースの関係性
3. 人種の枠組みを超えたロックンロール
4. 1960年代、ロックの出現による影響
5. ウッドストックフェスティバル
6. オルタモントの悲劇
7. 1970年代 ロックミュージックの再起
8. 1970年代以降の動き
9. パンク・ロック
10. まとめ
11. 今後の調査課題
12. 参考文献

1. 概要

本研究の目的はロックにまつわる社会運動やフェスティバル、著名なアーティストやバンド、カウンターカルチャーの若者たちやヒッピーたち（後述）なども例に挙げて、ロックが様々な社会問題（差別、戦争、産業社会化など）に対してどのような働きかけや影響を及ぼしたのかを明らかにすることである。

2. 差別とブルースの関係

ブルースは黒人差別と深い関係があるのと、後述するロックンロールの前身だからである。ブルースのルーツは1890～1900年にさかのぼる(1)。

黒人の奴隷制度が撤廃されて、自由の身になったが差別と重労働はなくならなかった。しかし一日の終わりに僅かな自由時間ができて、その時間に無くならない差別、それによる憂鬱、本能、明日への希望を歌った。

それが今現在まで続いている「ブルース」である。

ブルースはリズム&ブルースになる。

3. 人種の枠組みを超えたロックンロール

当時の親世代で差別が色濃く残っていた 1950 年代(1)に、ラジオにて白人の DJ アラン・フリードが、黒人音楽であるリズム & ブルースをロックンロールと呼んだ。(人種によって音楽を分けない意味合いを込めて) (3)。また、エルヴィス・プレスリー (白人の青年) の登場や、ティーンエイジャーが出現した (大人たちの差別の価値観への反抗、自己の感性に忠実な若者)。

これらの出来事により黒人音楽は白人 (主にティーンエイジャー) に聞かれるように。次第に黒人と白人の間にある壁は低くなっていった。

エルヴィスが与えた影響は分離政策のジム・クロウ法を押し返し、黒人と白人の間にある壁を低くした点で、「黒人公民権運動」とも連動していた。

4. 1960 年代、ロックの出現による影響

※3. 人種の枠組みを超えたロックンロール で述べた「ロックンロール」とは分けて考える(2)。

ロックとロックンロールの共通意識は機械化により機械が「神」のようになってしまった社会に対する反感や怒り、または移民たちの

差別による居場所のないやるせなさを思い切り表現した点である。

「ロックンロール」の怒りとは若者たちが『本能的』に共感できる強烈なビートで表現されたもの。

一方、「ロック」の怒りとは複雑さを増したサウンドと文学的修辞法や心理描写などを携えた歌詞の中で表現されたもので、『理性的』である。

つまりロックはロックンロールの直感レベルの表現を理性レベルに引き上げた

5. ウッドストックフェスティバル

マックス・ヤスガーの農場で行われた「愛」と「平和」をテーマとしたフェスティバル(2)。

初めの開催（3日間）での来客数は40万人。（半数以上は入場料を払わなかったため、事実上無料イベント）(4)

性差別（ゲイやレズビアンに対する）が1950～60年に性差別を禁じる法律がなかったため、ゲイやレズという理由だけで逮捕や、凄まじい暴力、また殺人なども起きていた。それらのひどい事態に若者は反抗する。

ウッドストックフェスティバルの最中に暴力事件などがあったという報告は一度もなかったらしく、驚くほど大規模で平和な祭典だった。

このフェスティバルは差別問題や反戦活動において大きな役割を果たした。

6. オルタモントの悲劇

ウッドストックフェスティバルが開催された1969年8月から4か月後の1969年12月に愛と平和と自由を掲げるオルタモントフェスティバルは開催された⁵。ウッドストックフェスティバルに並びロックの歴史において重要で大規模なフリーイベントである。しかし、ウッドストックと違って変わり、オルタモントフェスでは4人の死者を出してしまう悲惨な事態になってしまった。なぜこんなことが起きてしまったかという主催者側がフェスティバルの警備として雇った白人のバイカー集団のヘルズ・エンジェルズと観客の間でライブの最中に何度も衝突が起きていて、ある黒人の青年がステージに弾の入ってない銃を向けた時エンジェルズのメンバーが黒人の青年の背中にナイフを刺して袋叩きにして殺したらしい⁵。この黒人の青年と白人のバイカー集団の間で起きた悲惨な事件は時代を

考えると1つの社会的問題が背景にあると考えることができる。黒人公民権運動が盛んな時代で黒人労働者階層は白人労働者階層のライバル的存在になっていた。黒人公民権運動に一番反発を感じていたのは白人労働者階層だったので間接的にこの悲惨な事件が起きてしまったのではないかと筆者¹は考えている。私もこの時代背景を考えると黒人差別が完全に無くなっていると考えにくいのでそういった原因もある可能性は非常に高いと思う。

7. 1970年代ロックミュージックの再起

1970年、69年オルタモントの悲劇の影響があり、ウッドストックやオルタモントのような大規模なフリーフェスティバルは行われなくなり、反戦活動や平和を求めて抗議する若者も少なくなった。また巨大化した音楽市場はより万人に受け入れられやすいポップミュージックが主流になってきて、ロックミュージシャンの大半は音楽業界の第一線から外れた。その状況下でロックミュージシャンたちは環境保護運動や社会的弱者の救済活動に実践を見出していった。

8. 1970年代以降の動き

ロックミュージシャンのチャリティー活動で有名なのは1971年8

月ロック史上初めてのチャリティーコンサートは元ビートルズのジョージ・ハリスンとシタール奏者のラヴィ・シャンカールの二人が主催した『バングラデシュ救済コンサート』だ。エリック・クラプトンやボヴ・ディランなど豪華アーティストがノーギャラで出演した大変貴重なコンサートだ。

また日本でも 1977 年にジャクソン・ブラウンや泉谷しげる、細野晴臣などが出演した『鯨を救おうコンサート』が行われたこともあったし、21 世紀に入った 2001 年 9 月 11 日に世界貿易センターへのテロが起きてそのテロに対しての民衆の報復攻撃の大合唱が起きた時だって「平和の大切さ」を訴える運動を起こした。

9. パンク・ロック

1975 年にイギリスで、世界中のロックの精神的な勢いが衰えていく流れに対してロックのワイルドな原初的パワーを取り戻そうとする爆発的なムーブメントが起こった。そのムーブメントを起こしたのが「パンク・ロック」である。

代表的なバンドは「セックス・ピストルズ」である。このバンドの歌詞は政府や王室、大手レコード会社などの恣意的で権威的な存在を片端からボロクソにこき下ろす内容であった⁶⁾。パンク思想と

しては「社会秩序を破壊する」であり、この社会秩序は社会に悪い影響を及ぼしている事を意味している。

10. まとめ

どんな混乱や社会問題だったとしてもロックミュージシャン達は「ロックのメッセージ性」やどうにかしようという「想い」を崩さずに立ち向かった。たとえ、その行動がオルタモントの悲劇のような失敗と思える事だって次の何かの成功に繋がっているのだ。今現在までの偉大なミュージシャンたちの行動する「姿勢」に私は感銘を受けた。元々「ロックミュージック」が好きでこの題にしたのでより深く掘り下げることができ、そしてこの論文がきっかけでロックに関心を持つ人がいたらとてもうれしいです。

11. 今後の調査課題

ロックミュージックが社会問題に対して与えた良い影響に加えて、社会問題に対しての働きかけを行って失敗した事例なども挙げてそれぞれの活動の関連性なども調べる。

12. 参考文献

(1) 福屋利信, ロックンロールからロックへ, 近代文芸社, 2012-

06-15

(2) 矢口誠, ウッドストックがやってくる, 河出書房新社, 2009-8

(3) やんすう, <https://yansue.exblog.jp/17346621/>, 投稿日時 2013-02-21, 閲覧日 2019-11-20

(4) ロックは演奏で決まる, <http://rock-cd.info/history/1969woodstock.html>, 投稿日時 2006-06-04, 閲覧日 2019-11-20

(5) megmick <https://yaplog.jp/boogie/archive/81/yaplog/>, 投稿日時 2012-03-03, 閲覧日 2019-11-20

(6) サエキけんぞう, ロックとメディア社会, 新泉社, 2011-10-25